

アンドロイドは橋を渡れるか

◎登場人物

コマツ

スズミヤ

河原にて。

スケッチをするコマツ。

それを眺めるスズミヤ。

スズミヤ 楽しいですか？ それ。

コマツ まあ、楽しいね。

スズミヤ でもあなたは笑っていません。

コマツ 笑うような楽しさではないからね。

スズミヤ もうすぐ人類は滅亡するんですよ？

コマツ そうだね。

スズミヤ 人類滅亡の実感がないですか？

コマツ それも、あるかもしれない。

スズミヤ 人間は愚かです。自分たちの作ったアンドロイドに滅ぼされるなんて。

コマツ そんな悲劇の中で暮らす人間とアンドロイドっていうのも、物語としてみれば情緒的で楽しいかもしれない。

スズミヤ 絵画ってなんのためにあるんですかね。

コマツ え？

スズミヤ 写真で撮れば一瞬であなたが描いてる景色は切り取れるじゃないですか？

コマツ そうかもね。

スズミヤ あなたがそれを描き始めてもう3日。絵画は無駄が多いような気がします。

コマツ 無駄にこそ、面白みがあるんじゃないかな。

スズミヤ いまいちピンときませんね。

コマツ 俺はさ、橋を渡るのが怖いんだよね。
スズミヤ 橋、ですか？

コマツ そう。ほら、そこにも見えるでしょ？ あの橋も怖い。

スズミヤ 高所恐怖症ですか？

コマツ そうじゃない。

スズミヤ 吊り橋ならまだしも、頑丈な橋じゃないですか？

コマツ そうなんだけどね。なんか「石橋を叩いて渡る」じゃないけど、渡ろうとすると自分が落ちてしまうようなイメージが湧くんですよ。

スズミヤ 車が通れる程の強度ですよ？ そうそう崩壊するなんてこと。

コマツ 柵からはみ出て落ちるかもしれない。

スズミヤ 柵だってそうそう壊れませんよ。故意ではなく橋から歩いてる人が落ちたなんてニュース聞いたことありますか？

コマツ ないよ。

スズミヤ だったら。

コマツ あつちに信号機が見えるだろ？

スズミヤ 見えますね。

コマツ 俺はいまだにあの信号を守ってる。

スズミヤ そうですね。

コマツ もう車なんて通ることはないのに、だ。

スズミヤ そうですね。

コマツ 信号が青になったら渡る。赤なら止まる。ずっとそうやってきた。そう、ういう人生だったから、それに意味がなくなっても、そうやって生きてる。

スズミヤ アップデートした方がいんじゃないですか？

コマツ そろばんというものがあつた。

スズミヤ そろばん？

コマツ 電卓は知ってる？

スズミヤ はい。

コマツ それより前にあつた計算器具だよ。

スズミヤ 物知りですね。

コマツ 「故きを温ねて新しきを知る」っていうじゃない？

スズミヤ 必要なことであればインプットしますけど？

コマツ まあ、いいや。言いたいことはね。電卓よりも、そろばんの方が「味」

があるってこと。

スズミヤ 計算するのが目的なら、「味」は関係ないのでは？ それで計算スピードが下がってしまったら元も子もないです。

コマツ 君、手書きの履歴書は無意味と思ってるタイプだね？

スズミヤ 残念。手書きの履歴書には、「頑張ってあなたのために時間を使って書きました。」という意味を込めることができるので、相手によっては使ってもいい手法だと思っています。

コマツ そうですか…。

スズミヤ 何か、うんざりしてませんか？

コマツ 別に？

スズミヤ 何か諦めの感情が見えます。

コマツ でもそれは君の主観だ。

スズミヤ 主観。

コマツ 俺から見えてる君と君が思う君が違うように。私から見える橋や信号が君から見える橋や信号と違うように。その違いこそを俺はこの絵に込めてるつもりだ。

スズミヤ いいんじゃないですか？

コマツ え？

スズミヤ そんな終末の過ごし方も。

コマツ 最後だからこそ、自分に世界がどう見えてるか、残したいのかもな。

橋が怖い俺がいましたよってさ。

スズミヤ だから橋が少し歪んで描かれてるんですか？

コマツ ……これは俺の画力不足だ。

スズミヤ アンドロイドの癖に正確な線が引けないんですね。

コマツ うるさい。君こそ、人間ならもう少し橋を怖がれ。

幕